

ARC作成：主要経済指標の天気マップ

| | 四半期別推移 | | | | | | | | | | | 月別推移 | | |
|------------------|--------|---|-------|---|-------|---|---|---|-------|---|---|-------|---|---|
| | 2002年 | | 2003年 | | 2004年 | | | | 2005年 | | | 2005年 | | |
| | | | | | | | | | | | | 6 | 7 | 8 |
| 鉱工業生産 | あ | あ | い | い | あ | あ | あ | あ | い | い | い | い | う | う |
| 所定外労働時間 | あ | あ | あ | あ | あ | あ | あ | あ | う | う | う | う | う | |
| 全国百貨店販売 | う | う | う | う | う | う | う | う | う | う | う | う | う | う |
| 乗用車 新規販売台数 | あ | あ | え | う | う | あ | い | あ | あ | う | あ | あ | あ | い |
| 主要35社・ 旅行販売 | あ | い | え | え | う | い | あ | あ | い | あ | あ | あ | い | |
| 機械受注 (除船舶、電力) | う | あ | あ | あ | あ | い | あ | い | い | あ | い | い | あ | |
| 公共工事・ 受注金額 | う | え | え | え | え | え | え | え | え | あ | う | う | う | |
| 新設住宅・ 着工戸数 | う | う | い | う | い | あ | う | あ | う | い | い | い | あ | あ |
| 輸出・数量指数 | あ | あ | い | い | あ | あ | あ | あ | あ | う | う | う | う | い |
| マネー・サプライ | い | い | い | い | い | い | い | い | い | い | い | い | い | い |

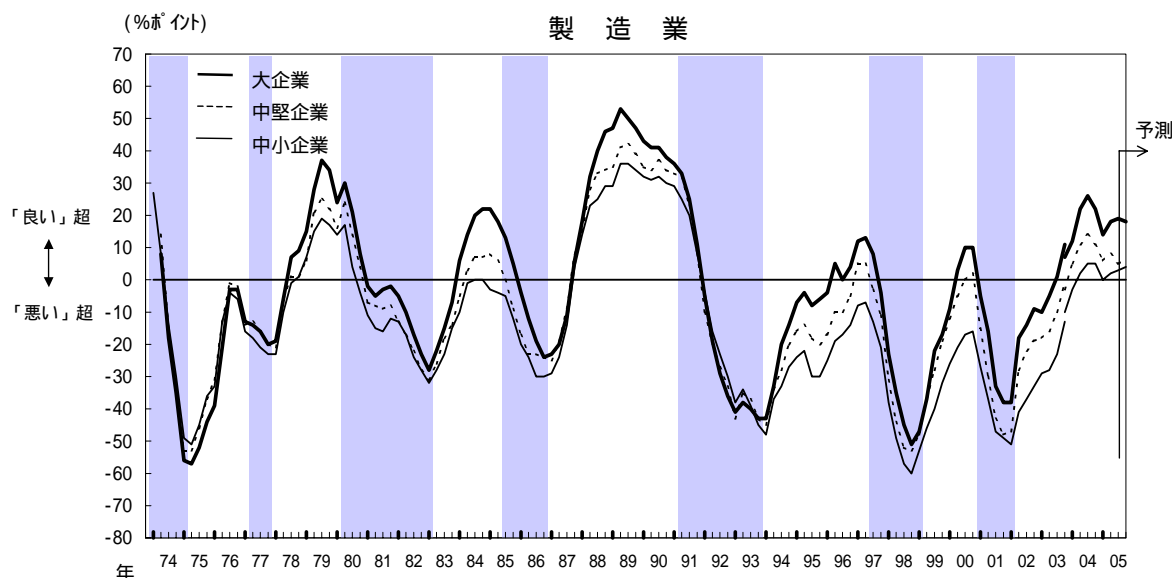
注1：天気マークあは前年比4%以上、いは前年比0%～4%、うは前年比-4%～0%、えは前年比-4%超を基準にしている。

注2：四半期別推移 は1～3月、 は4～6月、 は7～9月、 は10～12月。

注3：月別推移は異常値補正のため、前月、前々月との3ヵ月平均値を使用している。

注4：各指標の数字は2005年10月3日時点での入手可能なデータに基づく。

日銀短観（9月調査） 業況判断の推移



踊り場脱却の期待高まる日本経済

日銀短観：全業種・全規模でほぼ横ばい、改善テンポは緩やか

日本経済踊り場脱却との見方が広がっている。IMF（国際通貨基金）やOECD（経済協力開発機構）など国際機関は秋の経済見通しの改定で相次いで2005年の日本の成長率見通しを上方修正している。株価も外人買いの増加などから年初来高値の更新が続き4年4ヵ月ぶりの高水準となっている。

しかし、現実はまだ期待通りには進まない。踊り場脱却が確認できると期待されていた9月調査の日銀短観では、業況判断DI（「良い」 - 「悪い」）は製造業大企業で2四半期連続改善となったものの、非製造業大企業は横ばい、中堅企業では悪化するなど、全業種・全規模ではほぼ横ばいとどまった。原油高や中国経済の減速などから石油・石炭製品、鉄鋼、一般機械（中堅企業）では業況判断は悪化している。05年度の収益計画もほぼ横ばい、設備投資計画も中堅・中小企業は上方修正されたが、大企業は横ばいとどまっている。先行き判断も製造業大企業は悪化を見込むなど、企業は慎重姿勢を崩していない。

7～9月期の生産、機械受注はプラスの見込み - 懸念材料は原油高の影響

最近の経済指標をみると、鉱工業生産は8月、前月比1.2%増と2ヵ月ぶりのプラスとなった。予測指数では9月も3.0%増で、7～9月期は前期比プラスに転じると見込まれる。IT分野の在庫調整はほぼ目処がたったとみられ、今後は鉄鋼や化学など素材分野の在庫調整進捗が注目される。設備投資の先行指標とされる機械受注（電力・船舶除く民需）は、7月は2ヵ月ぶりのマイナスとなったものの、7～9月期では4四半期連続の増加が見込まれている。

雇用・所得環境の改善も続いており、失業率は4.3%まで低下し、常用雇用の増加（パート比率の頭打ち）から、雇用者所得も上昇している。雇用の改善、収入の増加から消費者心理は2ヵ月連続で上昇している。街角景気調査をみても、家計、企業、雇用関連とも景気判断は改善している。

今後、原油高、米国経済の減速などの海外からのマイナス要因を、国内要因がいかにか下支えしていくかが注目される。 [長谷川・松尾]

原油高で先行き不透明感が広がる世界経済

意外に楽観的なIMF見通し - 原油高と世界経済不均衡拡大を懸念

IMF（国際通貨基金）が9月21日に発表した世界経済見通しでは、世界の経済成長率は2005年、06年ともに4.3%と見込まれている。4月予測からは05年は据え置き、06年は0.1%下方修正されている。原油価格が60ドルと高騰している割には楽観的な見通しとなっている。

成長率は順調なもの世界的な経常収支の不均衡は拡大している。景況感のばらつきから金融政策の足並みも揃っておらず、景気下振れリスクは払拭されていない。また、原油価格高騰が石油輸入依存の高い新興市場や内需が低迷する欧州などに与える影響、保護貿易主義的な動きの台頭への懸念が指摘されている。

IMFの世界経済見通し（9月21日発表）

単位：実質GDP成長率、%

| | 世界 | 米国 | 日本 | ユーロ圏 | NIEs | ASEAN-4 | 中国 |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 2005 | 4.3 (-) | 3.5 (0.2) | 2.0 (1.2) | 1.2 (0.4) | 4.0 (-) | 4.9 (0.5) | 9.0 (0.5) |
| 2006 | 4.3 (0.1) | 3.3 (0.3) | 2.0 (-) | 1.8 (0.5) | 4.7 (0.1) | 5.4 (0.4) | 8.2 (0.2) |

原油高とハリケーン被災で消費者心理悪化する米国

米国では、高騰する原油価格にハリケーン被災の影響も加わり、先行き不透明感が広がっている。ハリケーン被害で7～9月期のGDPが0.5～1%押し下げられるとの見方も出るなか、FRB（米連邦準備理事会）は9月20日、影響は一時的と判断して連続11回目の利上げを実施した（FF金利は3.75%に）。原油高によるインフレ懸念を優先したが、理事会では慎重な意見も出された。

最近の経済指標をみると、非農業雇用者数はハリケーンの影響で減少したが、今後は復興需要での増加が期待されている。鉱工業生産は4ヵ月連続で増加、設備投資の先行指標となる耐久財受注も2ヵ月ぶりプラスとなっている。一方、自動車部品のデルファイが米国車のシェア低下などから破産申請を行い、200万台の高水準を続けてきた住宅着工が前月比2ヵ月連続マイナス、小売売上高も減少するなど、消費者心理は悪化している。 [長谷川・松尾]